

[要旨] 韓国語にはいくつかの名詞化接辞があるが、その中の*-ki*と*-m*は接辞でありながらも統語的な性質を示し、動詞句より大きい統語的な単位を埋め込むことができる。先行研究ではこの二種類の名詞化により作られた構造に時制句が含まれると主張されているが、それぞれの時制句の性質については触れていない。本稿では*-ki*名詞句と*-m*名詞句に含まれる時制句の性質が異なると主張する。*-ki*名詞句に含まれる時制は命令文の時制に類似しており、*-m*名詞句の中にある時制は平叙文の時制に類似している。さらに、先行研究では名詞化の対象となる最大の単位は時制句であると指摘されているが、本稿では時制句より構造的に上に位置するモダリティ句が名詞化の対象になると主張する。ただし、*-m*名詞句にあるモダリティ句は常に機能しているが、*-ki*名詞句に含まれるモダリティ句は特定の環境においてだけ活性化できるという点において、二つの名詞化接辞が区別される。

1. はじめに

韓国語において、述語が名詞的な振る舞いをしなければならない場合、形態的操作を通して述語が名詞化される。述語を名詞化させるためにはいくつかの接辞が存在するが、その中でも*-ki*と*-m*は語以上の統語的な構造を埋め込むことができ、特別な性質を示している。(1a)と(1b)では*-ki*と*-m*が動詞語根を名詞に派生させた例を、(2a)と(2b)では統語的な構造を名詞句に変換する例を挙げている¹。

- (1) a. *talli-ki* *cwul+nem-ki* b. *kkwu-m* *kuli-m*
run-NR rope+skip-NR dream-NR draw-NR
‘running’ ‘skipping rope’ ‘dream’ ‘drawing’
- (2) a. *Sewul-ey-nun pi-ka o-ki-lul kitayha-yess-ta.*
Seoul-LOC-TOP rain-NOM come-NR-ACC expect-PST-DECL
‘I expected it to rain in Seoul.’ (キム＝ミジャ 2005: 25)
- b. *ku il-ey muncy-ka iss-um-ul cicekha-yss-ta.*
that.ADN thing-LOC problem-NOM exist-NR-ACC point.out-PST-DECL
‘He pointed out that there was a problem.’ (キム＝ミジャ 2000: 58)

(1a)と(1b)のように*-ki*と*-m*が典型的な派生接辞の振る舞いをする場合もあれば、(2a)と(2b)のように文を名詞化させる場合もある。本稿では主に後者の場合を考察する。*-ki*と*-m*が統語的な性質を示すことは多くの研究で言及され、この場合において両者の区別についても考察されているが、区別が生じる原因についての言及は少なかった。代表的な区別として挙げられるのは、名詞化された構造に時制(T)がどのように実現されるかということである。キム＝イルファン(2005:45)はコーパスに基づき、*-m*による名詞化構造(以下、*-m*名詞句)には過去時制が自由に現れるが、*-ki*による名詞化構造(以下、*-ki*名詞句)においては過去時制の出現に制限がかかると述べている。(3)は*-m*名詞句の例であり、*-m*名詞句に過去時制があっても

¹ 本稿で提示した例文は先行研究から引用したものと作例からなっている。先行研究から引用したものは全てその後ろに引用源を示している。作例は発表者によるものであるが、例文の文法性に関しては母語話者の確認を得た。本稿で用いた韓国語ローマ字表記法はイェール式である。

なくても文の文法性に影響を及ぼさない。それに対し、*-ki* 名詞句では、(4a) のように過去時制の出現が許可される場合もあれば、(4b) のように許可されない場合もある。

- (3) *ku il-ey muncey-ka iss(-ess)-um-ul cicekha-yss-ta.*
 that.ADN thing-LOC problem-NOM exist-PST-NR-ACC point.out-PST-DECL
 ‘He pointed out that there was a problem.’ (キム＝ミジャ 2000: 58)

- (4) a. *Sewul-ey-nun pi-ka o(-ass)-ki-lul kitayha-yess-ta.*
 Seoul-LOC-TOP rain-NOM come-PST-NR-ACC expect-PST-DECL
 ‘I expected it to rain in Seoul.’ (キム＝ミジャ 2005: 25)

- b. *John-i cip-ul ttena(*-ss)-ki-lul yaksokha-yess-ta.*
 John-NOM home-ACC leave-PST-NR-ACC promise-PST-DECL
 ‘John promised to leave home.’ (Chun et al. 2001: 788)

この区別について解釈する研究は少なく、解釈した研究でも *-ki* 名詞句と *-m* 名詞句に結合する主節述語が違ふということにとどまり、*-ki* と *-m* の区別までは分析できなかった。本稿では *-ki* と *-m* の区別がそれぞれの名詞句に含まれる T が異なることに起因すると主張する。また、*-ki* 名詞句と *-m* 名詞句に接辞 *-keyss* が現れることができるが、この接辞との結合においても *-ki* と *-m* は異なる様相を呈する。この接辞は韓国語の名詞化を考察した研究でよく未来時制として捉えられたが、本稿ではこの接辞がモダリティを表すと主張し、これによって、*-ki* と *-m* 名詞化の対象になるのは時制句 (TP) よりも大きい単位であることを提唱する。

2. *-ki* と *-m* に関する先行研究

-ki と *-m* の意味的な区別を述べる先行研究は少なくないが、多くの研究では *-ki* と *-m* の主な区別がこれらの接辞にある意味素性が異なるとされている。例えば、キム＝イルファン・キム＝ジョンウォン (2003) やキム＝イルファン (2005) は、*-ki* と共起する主節述語がある事態が今存在しないことを意味的に求めるため、*-ki* の意味素性は[非存在]であるが、*-m* が主にある事態の存在を求める主節述語と共起するため、その意味素性が[存在]であると述べた。また、キム＝ジョンボク・キム＝テホ (2009) は *-ki* 名詞句に含まれる文がまだ行われていない事件や行為を表すため、*-ki* の意味素性を[*-past/-factive*]にし、*-m* 名詞句に含まれる文がすでに行われた事件や行為、または一般的事実を表すため、*-m* の意味素性を[*+past/+factive*]にしている。しかし、*-ki* の意味素性を非存在や非過去と仮定すれば、(4a) のような過去時制が現れる場合に対する説明が難しくなり、(5a) や (5b) などの文を説明することもできない。(5a) での主節述語は *chwucanghata* (主張する) であり、未来の事態の発展や変化ではなく、事実を述べるものであるが、*-ki* と結合できる。(5b) での主節述語は名詞句内の事態がまだ起こっていないことを求める *chenghata* (求める) であるが、*-m* と結合している。

- (5) a. *na-nun hwahayha(?-yss)-ki-lul chwucangha-yss-ta.*
 1SG-TOP reconcile-PST-NR-ACC claim-PST-DECL
 ‘I claimed that we should reconcile.’ (キム＝ミジャ 2000: 62)

- b. *kamhi sincwu-lul camkkan talun kos-ulo olmki-keyss-um-ul chengha-pnita.*
 dare mortuary.tablet-ACC for.a.moment other place-ALL move-INFR-NR-ACC ask-2HON.FRM-DECL
 ‘I ask you to move the mortuary tablet to another place for a moment.’ (キム＝イルファン 2005: 44)

接辞の意味素性ではなく、主節述語の意味素性の違いを用いて説明する研究もある。チョン＝ジュリ (2006) では、*-m* 名詞句の主節述語は名詞句内の事態がそれより前に起こることを求める[先行的時間性]という素性を持つが、*-ki* 名詞句の主節述語は未来の事態の発展や変化を求める[予測的時間性]という素性を持つとされている。しかし、この説明でも (5a) や (5b) のような文を解釈できない。前述したように、(5a) での主節述語が普通事実を述べるものであるにもかかわらず、*-ki* 名詞句と共起している。また、(5b) では主節述語 *chenghata* (求める) と共起する名詞句内の事態が明らかに主節述語が表す動作に先行していないが、*-m* 名詞句が用いられている。*-ki* と *-m* の意味素性に基づく研究と同じく、チョン＝ジュリ (2006) の主張も全ての状況を説明しきれない。このような説明の不十分さがあるため他の解釈が求められている。

3. 名詞化構造内部の統語構造

Chomsky (1970) は英語の名詞化を三種類に分類し、それぞれを内部構造が名詞句に近い派生名詞化 (derived nominalisation) と、内部構造が文に近い動名詞による名詞化 (gerundive nominalisation)、形式上動名詞の接辞が付くが内部構造が名詞句に近い混合名詞化 (mixed nominalisation) と呼んでいる。それぞれの名詞化の例を (6) に挙げている。内部構造が名詞句に近い (6a) と (6c) では、述語に当たる部分に対し副詞の修飾が不可能であり、被動者の意味役割を担う名詞句が前置詞により導入されている。一方、文に近い (6b) では述語に当たる部分に対し形容詞の修飾が不可能であり、被動者の名詞句が前置詞に頼らず導入されている。

- (6) a. Derived nominalisation: *John's (polite/*politely) refusal of the offer*
 b. Gerundive nominalisation: *John(s) (*polite/politely) refusing the offer*
 c. Mixed nominalisation: *John's (polite/*politely) refusing of the offer* (Lieber 2018: 8)

Chomsky (1970) は派生名詞化を統語規則で解釈するのが難しいと述べたが、Alexiadou (2001) は全ての過程名詞化形 (process nominal) を統語的に解釈でき、異なる名詞化の間に存在する違いは名詞化された構造に含まれる投射の数に起因すると主張した。一部の名詞化の統語構造は (7) のように示している。(7a) は動名詞による名詞化の構造で、*-ing* はアスペクト句 (AspP) の主要部である。(7b) は混合名詞化の構造で、*-ing* は n (n や v は範疇を決めるレベルである。例えば、n はその補部を名詞的なものにする機能を持つ) として実現するが、どちらの構造もヴォイス句 (VoiceP) を取り込んでいる (cf. Alexiadou et al. 2010)。(7c) は *-ation* を代表とする名詞派生接辞の構造であり、vP まで名詞化の対象となる。しかし、このような構造は (6a) のように項を導入できる場合に限定される。項構造が欠如する名詞派生接辞やゼロ派生による名詞化の場合、その統語構造は (7d) となる。

- (7) a. [D [AspP *ing* [VoiceP [vP [√
 b. [D [n *ing* [VoiceP [vP [√
 c. [D [n *ation* [vP [√
 d. [D [n ∅ [√ (Alexiadou & Grimshaw 2008: 13)

Chung (2019) は「名詞化構造の性質がそこに含まれた機能範疇の数に影響される」という仮説を韓国語に適用して分析を行った。Chung (2019) は *-ki* と *-m* の両方について考察し、(3) や (4a) などを基にこれらの名詞化接辞の対象となるのは AspP より高い TP であると主張した。*-ki* と *-m* の区別について、Chung (2019) は *-ki* が他動詞と、*-m* が自動詞としか結合できないと述べたが、この区別は名詞化された構造の主語が属格の場合だけに存在し、主格主語の場合の両接辞の区別については考察しなかった。本稿では主格主語の場合の-

ki と *-m* の区別を明確にし、*-ki* と *-m* 名詞化の対象となるのは TP よりも更に高いことを主張したい。

4. *-ki* 名詞句と *-m* 名詞句にある時制

1 節で言及したように、*-m* 名詞句には過去時制が自由に現れるが、*-ki* 名詞句においては過去時制の出現に制限がかかる。このような制限は主節述語の性質に関わっており、述語が「未来指向」的でないと過去時制が現れない（キム＝ミジャ 2000: 58, 62；キム＝ミジャ 2005: 25–26）。(4a) の *kitayhata*（期待する）や *wenhata*（望む）、*parata*（願う）など未来に何かが起きることを願望する述語であれば、それと共に起る *-ki* 名詞句に過去時制の出現が可能であるが、(4b) の *yaksokhata*（約束する）や (5a) の *cwucanghata*（主張する）のような未来への願望が含まれない述語であれば過去時制が現れない。

同じく未来指向的な性質を持っているのは命令文である。命令文に関して、多くの研究ではその T が平叙文と異なると指摘され（cf. van der Wurff 2007; Zanuttini et al. 2012）、更に、一部の研究では命令文の T の解釈が常に「未来指向 (future orientation)」的であると述べられた（cf. van der Wurff 2007; Kaufmann 2012: 96; Alcázar & Saltarelli 2014: 106; イ＝ジス 2016）。これは (8a) と (9a) のように、過去を表す時間副詞と共に起できないことや、(8b) と (9b) のように、命令文に過去時制が現れないという形で形式的にも反映されている。

- (8) a. *Buy a Fiat now/tomorrow/*yesterday!* (Alcázar & Saltarelli 2014: 106)
 b. **Bought a Fiat!*
- (9) a. *tancang/nayil/*ecey cemsim-ul sa-la!* b. *cemsim-ul sa-(*ss)-ala!*
 now/tomorrow/yesterday lunch-ACC buy-IMP lunch-ACC buy-PST-IMP
 ‘Buy lunch now/tomorrow/yesterday!’ ‘Bought lunch!’

このような性質は *-ki* 名詞句に含まれる T の性質に一致し、どちらの T にも [+future oriented] という素性が含まれる可能性を示唆している。しかし、(4b) のように、*-ki* 名詞句の中に過去時制の出現が許可される場合もある。これは *-ki* 名詞句を補部とする主節述語の影響を受けるためである。命令文は普通 (8) や (9) のように主節にしか用いられない一方、*-ki* 名詞句は常に主節の述語に依存しているため、主節述語の影響も考慮する必要がある。(4b) や (5a) のように主節の述語が未来指向的でないとき、*-ki* 名詞句の T は未来指向的であると解釈される必要があるため、過去時制が出現できない。それに対し、主節の述語が (4a) のように未来指向的になると、*-ki* 名詞句の T の素性と被り、過去時制が現れても意味に影響を及ぼさないため、過去時制の出現が許される。*-ki* 名詞句における T の実現規則は (10) と (11) の通りである。(10) のように、主節述語に未来指向的な素性がなく、T に [+future oriented] と [PST] の両方の素性がある場合、構造が統語派生の段階ですでに崩壊した。主節述語に未来指向的な素性、T に [+future oriented] と [PST] の両方の素性がある場合、(11a) のように T にある二つの素性が過去時制 (*-ess-*) で実現する。その他の場合では (11b) のように音形のない形で実現する。

- (10) a. [+future oriented] [PST] → crashed ; when not c-commanded by [+future oriented]
 (11) a. [+future oriented] [PST] ⇔ *-ess-* /]V___NR[; when c-commanded by [+future oriented]
 b. [+future oriented] ⇔ ∅

一方、*-m* 名詞句内部では制限なしで過去時制が現れる。これは *-m* 名詞句内部に含まれる T が平叙文と同じであることを示している。普通の平叙文においてどの時制が現れても制限がかからないのと同じように、*-m* 名詞句の内部でも T に関する制限が存在しない。ただし、(12) のように、主節述語が未来指向的であると、

T が過去時制の接辞として実現できなくなる。-*m* 名詞句にある T の実現規則は (13) で示す通りである。
 (13a) で示したのは T に[PST]の素性しかなく、主節述語に[+future oriented]の素性があると、構造が崩れてしまう場合である。それ以外の場合では (13b) と (13c) のように T の実現が平叙文と同様である。

- (12) **kamhi sincwu-lul camkkan talun kos-ulo olmky-ess-um-ul chengha-pnita.*
 dare mortuary.tablet-ACC for.a.moment other place-ALL move-PST-NR-ACC ask-2HON.FRM.DECL
 ‘I ask you to move the mortuary tablet to another place for a moment.’
- (13) a. [PST] → crashed ; when c-commanded by [+future oriented]
 b. [PST] ⇔ -*ess-* /]V__NR[
 c. [PRES] ⇔ ∅

-*ki* 名詞句にある T の性質が命令文の T に類似することを支持する他の証拠もある。キム＝イルファン (2005) によると、形容詞が-*ki* と結合するとき、主節述語が必ず期待や願望を表す動詞である。命令文の場合も同様であり、命令文に現れうる形容詞は数が少なく、命令文に用いられたとしても期待や願望を表すものが多い (cf. イ＝ジス 2016)。また、-*m* 名詞句と-*ki* 名詞句が主節に使われることもある。その場合、-*m* 名詞句は (14a) のように平叙文として使われるが、-*ki* 名詞句は (14b) のように命令文や勧誘文として使われる (キム＝イルファン・キム＝ジョンウォン 2003)。

- (14) a. *nayngcangko-ey masi-l mul-i iss-ko lamyen-to iss-um.*
 fridge-LOC drink-ADN.FUT water exist-CONJ instant.noodles-also exist-NR
 ‘There is water for drink and instant noodles in the fridge.’
- b. *konghang tung-ey tull-e oykukin inthepyuha-ko nokumha-y o-ki.*
 airport etc.-LOC drop.by-INF foreigner interview-CONJ record-INF come-NR
 ‘Drop by airports and other places, interview foreigners and record them.’
 (キム＝イルファン・キム＝ジョンウォン 2003: 168)

5. 名詞化構造内のモダリティ句

(5b) で見たように、-*m* 名詞句の中に-*keyss-*という接辞が現れうる。そして、(15) で示したように、-*keyss-*は-*ki* 名詞句においても出現可能である。韓国語名詞化に関する研究では-*keyss-*について考察したものが少なく、考察した研究としてキム＝イルファン (2005) が挙げられるが、-*keyss-*が未来時制を表すものとして捉えられている。しかし、-*keyss-*を詳しく考察した多くの研究ではそれがモダリティ形式として捉えられる (cf. Song 2005; Lee 2011; Youn 2020; シン＝オンホ 2023)。本稿もこの立場に従う。

- (15) *kenney-myen oykukin-i-m-i kumpang thanlona-keyss-ki ttaymun-i-ta.*
 talk-COND foreigner-COP-NR-NOM soon be.revealed-INFR-NR reason-COP-PRES.DECL
 ‘Because if he talks, his being a foreigner will soon be revealed.’

-*keyss-*の統語的な位置づけについて、本稿ではそれが構造上 TP よりも高いモダリティ句 (ModP) の主要部であると主張する。これは、モダリティや時制、アスペクトなど様々なレベルを修飾する副詞の位置を通言語的に考察し、それを根拠に副詞が対応する機能範疇の統語的な位置を分析した研究では ModP が TP より高いとされるからである (cf. Cinque 1999, 2006; Rizzi 2013)。また、韓国語では-*keyss-*が過去時制接辞の外

側に現れることができることも ModP が TP より高い位置にある証拠となる。(5b) と (15) を基に、*-m* 名詞句と *-ki* 名詞句に含まれる構造は ModP であることがわかる。

ただし、意味的に合えば *-m* 名詞句に *-keyss-* が制限なしで出現できるのに対し、*-ki* 名詞句の場合は (15) のような原因を表す構造にしか *-keyss-* が現れない。これに基づき、主節に原因に関連する意味素性がある場合に限って *-ki* 名詞句にある ModP が活性化され、機能できるようになるという仮説を立てる。そして、ModP が活性化されると、*-ki* 名詞句にかかる T の制限もなくなる。つまり、主節に原因に関連する意味素性がある場合では、過去時制の接辞が *-ki* 名詞句に現れることができる。これはパク＝ヒョジョン (2018) のコーパス調査の結果でも検証されたように、過去時制と *-ki* の共起の 90% 以上が主節が原因を表す場合に起きている。

-ki 名詞句内部の ModP と TP の関係性に関しては 4 節で述べた未来指向的な主節述語でも窺える。*-ki* 名詞句に過去時制が現れるのは期待や願望などを表す主節述語の場合のみであり、これらの主節述語は希求法 (optative) というムードと近い役割を果たすため、同じくムード・モダリティ関連の意味を表していることがわかる。

6. おわりに

本稿では韓国語の *-m* 名詞句と *-ki* 名詞句の統語構造をより詳しく記述することを試みた。Alexiadou (2001) や Chung (2019) などに従い、名詞化構造の内部には文に相当する統語的な単位があることを認め、*-m* 名詞句と *-ki* 名詞句の内部には ModP が含まれると主張する。*-m* 名詞句と *-ki* 名詞句の主な区別が二つあり、その一つは *-m* 名詞句と *-ki* 名詞句にある T の性質である。*-m* 名詞句にある T は平叙文と似ているが、*-ki* 名詞句の中の T は命令文に近い。もう一つの区別は *-m* 名詞句と *-ki* 名詞句に含まれる ModP の性質であり、*-m* 名詞句にある ModP は常に機能しているのに対し、*-ki* 名詞句にある ModP は主節に原因に関連する意味素性がある場合のみ活性化される。更に、*-ki* 名詞句にある活性化された ModP は、未来指向的な主節述語と類似した機能を持つことも示唆された。

謝辞

本稿の作成にあたって、定延利之先生、千田俊太郎先生、Adam Catt 先生、大竹昌巳先生、徐敏徹先生、そして川畑祐貴氏、韓旼池氏から有益なコメントをいただいた。先生方と各氏に深く感謝を述べたい。そして、容認性判断をしてくださった韓国語母語話者の方々にも感謝を申し上げたい。ただし、本発表に誤りがあった場合、その誤りは全て筆者に帰するものである。

略語

1: first person; 2HON: addressee honorific; ACC: accusative; ADN: adnominal; ALL: allative; COND: conditional; CONJ: conjunctive; COP: copula; DECL: declarative; FUT: future; FRM: formal; IMP: imperative; INF: infinitive; INFR: inferential; LOC: locative; NOM: nominative; NR: nominaliser; PRES: present; PST: past; SG: singular; TOP: topic.

参考文献

- Alcázar, Asier & Mario Saltarelli (2014) *The syntax of imperatives*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Alexiadou, Artemis (2001) *Functional structure in nominals: Nominalization and ergativity*. Amsterdam & Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.
- Alexiadou, Artemis, Gianina Iordăchioaia & Elena Soare (2010) Number/aspect interactions in the syntax of nominalizations: A Distributed Morphology approach. *Journal of Linguistics* 46: 537–574.

- Alexiadou, Artemis & Jane Grimshaw (2008) Verbs, nouns and affixation. *Work papers of the SFB 732: Incremental Specification in Context* 1: 1–16. https://elib.uni-stuttgart.de/bitstream/11682/5712/1/SinSpeC1_volume.pdf (accessed 20 April 2024).
- Chomsky, Noam (1970) Remarks on nominalization. In Roderick A. Jacobs and Peter S. Rosenbaum (eds.) *Readings in English transformational grammar*, 184–221. Waltham, MA: Ginn and Company.
- Chun, Chan, Jong-Bok Kim, Byung-Soo Park & Peter Sells (2001) Mixed categories and multiple inheritance hierarchies in English and Korean gerundive. *Language Research* 37(4): 763–797.
- Chung, Heeryun (2019) The syntax of Korean nominalizations. Doctoral Dissertation, Sogang University.
- イ=ジス 이지수 (2016) 「韓國語命令文の文法と発話行為研究」博士論文, ソウル大学校, (한국어 명령문의 문법과 화행 연구).
- Kaufmann, Magdalena (2012) *Interpreting imperatives*. Dordrecht: Springer.
- キム=イルファン 김일환 (2005) 「名詞形語尾「-ki」の特異性」『한국어학』 28: 39–53, (명사형 어미 ‘-기’의 특이성).
- キム=イルファン・パク=ジョンウォン 김일환·박종원 (2003) 「国語名詞形語尾の分布に対する計量的研究」『국어학』 42: 141–177, (국어 명사화 어미의 분포에 대한 계량적 연구).
- キム=ミジャ 김미자 (2000) 「名詞化構文の形態統語的な現象を判断する」『경희대학교 고봉논집』 26: 53–69, (명사화 구문의 형태통사론적인 현상 진단).
- キム=ミジャ 김미자 (2005) 「韓國語名詞化構文の統語構造」『언어연구』 22(1): 17–33, (한국어 명사화 구문의 통사구조).
- キム=ジョンボク・キム=テホ 김종복·김태호 (2009) 「「kes」補文節の文法的特徴—コーパス調査を基に—」『언어과학연구』 48: 181–199, (‘것’보문절의 문법적 특징—말뭉치 조사를 바탕으로—).
- Lee, Hye-Kyung (2011) Futurity and modality in Korean. *Discourse and Cognition* 18(3): 245–272.
- Lieber, Rochelle (2018) Nominalization: General overview and theoretical issues. In Mark Aronoff (ed.) *Oxford Research Encyclopedia of Linguistics*. DOI: <https://doi.org/10.1093/acrefore/9780199384655.013.501>.
- パク=ヒョジョン 박효정 (2009) 「名詞形語尾「-ki」と過去時制語尾の結合様相分析」『언어사실과 관점』 44: 235–265, (명사형 어미 ‘-기’와 과거시제 어미의 결합양상 분석).
- シン=オンホ 신언호 (2023) 「韓國語先語末語尾「-keyss-」の多義的現象に対する考察」『우리말글』 98: 57–83, (한국어 선어말어미 ‘-겠-’의 다의적 현상에 대한 고찰).
- Song, Mean-Young (2005) Is *-keyss* really a future tense marker?. *Studies in Modern Grammar* 40: 135–159.
- チョン=ジュリ 정주리 (2006) 「「-um」「-ki」の意味と制約」『한국어학』 30: 291–318, (‘-음’, ‘-기’의 의미와 제약).
- van der Wurff, Wim (2007) Imperative clauses in generative grammar: An introduction. In Wim van der Wurff (ed.) *Imperative clauses in Generative Grammar: Studies in honour of Frits Beukema*, 1–94. Amsterdam & Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.
- Youn, Jhu Hyoung (2020) Evidentiality and modality?: Analysis of Korean *-keyss*. *The Journal of Linguistic Science* 93: 93–119.
- Zanuttini, Raffaella, Miok Pak & Paul Portner (2012) A syntactic analysis of interpretive restrictions on imperative, promissive, and exhortative subjects. *Natural Language & Linguistic Theory* 30(4): 1231–1274.